荒川中だより
青 い 雲
教育目標　「めあてをもち　自分で考え　ねばり強くやり抜こう」

令和７年度　第８号
令和７年11月13日発行
村上市立荒川中学校

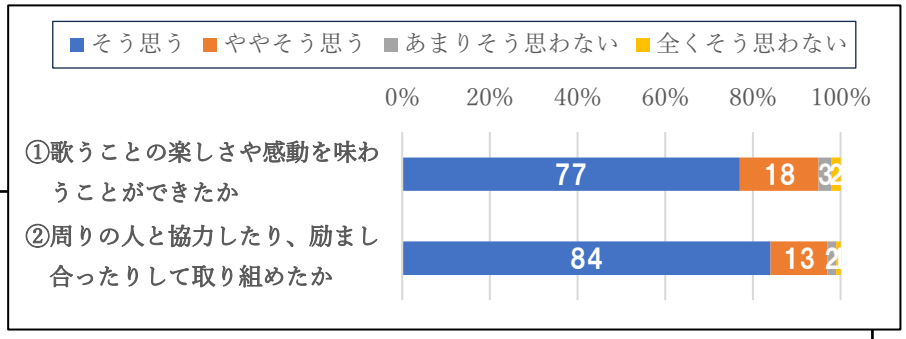
絆で奏でた青雲祭の感動、その先にある成長

校長　　西村　諭

11月７日は立冬。北風が吹き始め、朝晩の冷え込みが一段と厳しく感じられるようになりました。今週から、登下校の冬期バスの運行が始まりました。冬支度が本格化する季節の変わり目でもあり、体調管理には十分気を付けたいところです。

さて、10月31日に青雲祭が行われました。『心を一つにしてつくり上げる合唱は当校の伝統』であり、２週間にわたる強調週間では、校舎のあちらこちらから美しい歌声が聞こえてきました。青雲祭のねらいは、音楽表現の美しさや楽しさを味わうこと、そしてまとまりのある学級をつくることにあります。生徒は「スマイル～絆で奏でる青春と感動～」をスローガンに掲げ、主体的に取り組みました。

当日は、ご来賓や多くの保護者・地域の皆様を前に、生徒は素晴らしい歌声を響かせました。下表は、生徒会が行ったアンケート結果です。①②の質問に対する肯定的な評価は、90％を超えており、青雲祭のねらいが、ほぼ達成されたといえるでしょう。



＜記述評価＞

- １年生：初めての青雲祭で、みんな最初は緊張して全然声が出なくてどうなるかと思ったけど、昼休みの反省会でしっかりと課題を見つけ、それを直すためにみんなで協力することができたのでよかった。
- ２年生：昨年より積極的に声がけを意識して練習してきました。来年は最高学年になるので、全校の手本になるような姿を意識して取り組みたいです。
- ３年生：みんな楽しそうに真剣に取り組んでいて、個人的にも３年間で一番いい青雲祭になりました。もう行事はないけれど、精一杯取り組んだので悔いはないです。

これらの記述からも、仲間との絆が強くなったことがうかがえます。また、２年生の記述には、次年度の目標が掲げられています。一つの行事が終わり振り返ったときに、「この成果を次に活かす」という発表を聞くことがあります。行事をよい思い出だけに終わらせるのではなく、「先に続くもの」として捉える考え方はとても素敵だと思います。

努力は本番のためだけに行ってきたわけではなく、日常の素敵な自分、将来の自分をつくるためにあるという考え方です。「行事を終えた翌日からが本番」という力強い決意のようなものを感じます。今月は、２年生では高校説明会、３年生では進学説明会、そして定期テストがあります。自己実現に向けての生徒の努力は続いていきます。当校は、保護者の皆様と連携・協働しながら、生徒の夢や深い学びの実現に努めてまいります。